

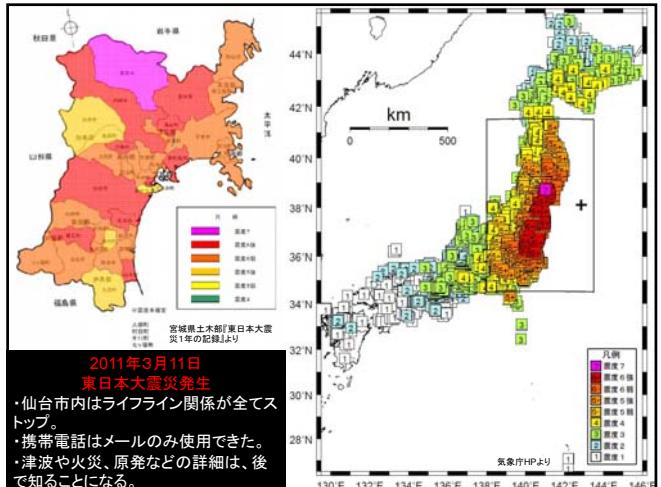


Title	被災地の復興支援と遺跡資料リポジトリ
Author(s)	菅野, 智則
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23251
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



自宅の状況

本棚を含めた家具類は倒壊し、あらゆるものが散乱している。本を靴で踏みつけて移動するような状況となる。

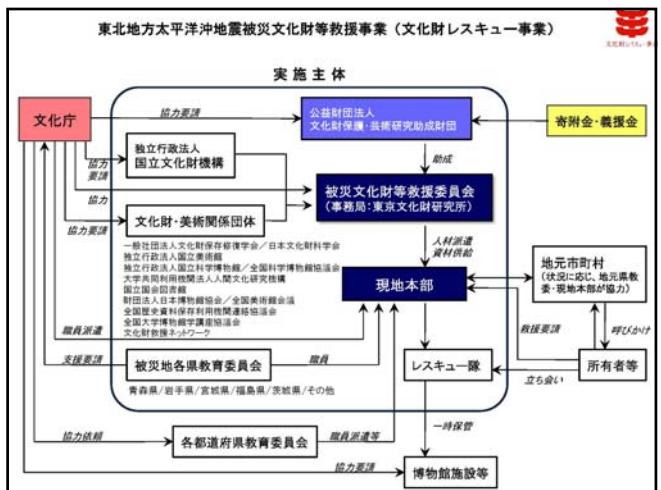
片付けを少しづつ進めていたが、4月7日の余震(マグニチュード7.2・最大震度6強)で再度崩壊。

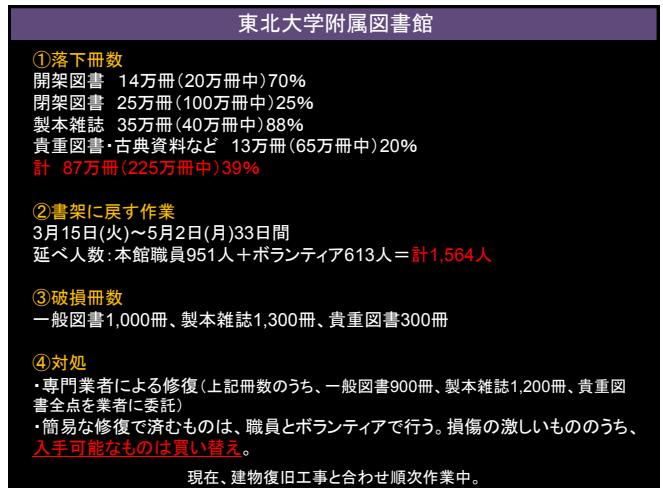
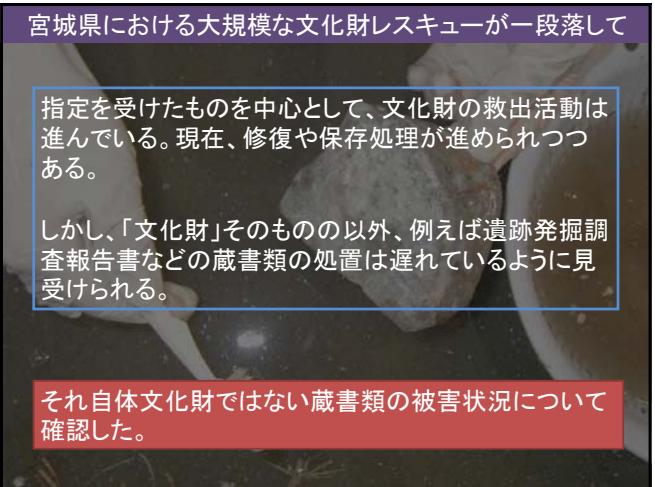
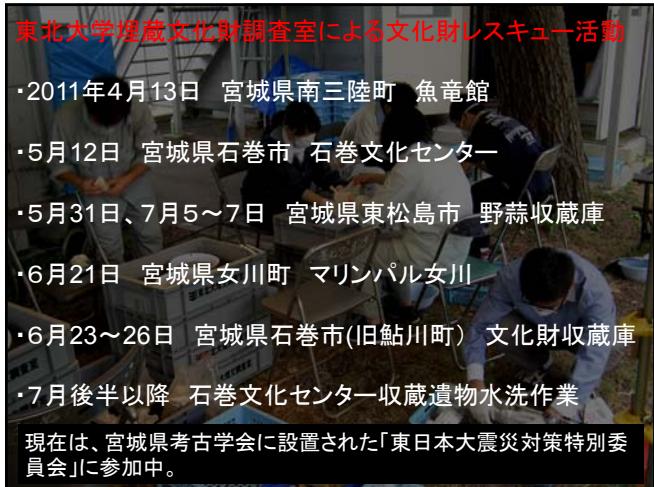


東北大学埋蔵文化財調査室



(2011年3月11日撮影)







2012年1月26日撮影



この図書カードは、「被災文化遺産支援コンソーシアム(CEDACH)」にてデータ化が進められている。

石巻市文化センターの蔵書

- ・図書の「汚れ」は落とせるが、固着してしまったものはどうしようもない。そうしたものについては廃棄する方針。
- ・どの程度、救出できたのかまだ不明だが、今後、継続的な活動が必要。
→「宮城歴史資料保全ネットワーク」により作業が続けられている
- ・しかし、報告書類を含めた図書環境を復旧させるのは優先順位が低いため、抜本的な作業は不可能。

被災地における研究環境の復旧

被災地支援の一つとして、これらの蔵書類等を含めた研究環境復旧への支援も必要であると考える。

このような研究環境が無いと、地元文化財の価値を見極めることは困難となる。この支援を通じて地域的な拠点の復旧へと繋げたい。

遺跡リポジトリの観点から支援を考えるならば、

- ①報告書の活用と、②刊行物の流通
- という二つの目的が考えられる。

遺跡リポジトリの活用①—報告書の利用—

現在購入できる図書は、予算の問題があるが、購入できないことはない。問題は、購入できない図書である。そのような例として、考古学では報告書がある。

報告書については、日本各地からの寄贈(送付)も可能であろうが、これまで収蔵していた博物館等施設の建設設計図はまだ無く、収蔵する場所も整理する人員も足りない。

しかし、今後の調査研究とくに震災復興関連の調査などにおいて、使用する機会が増えることが想定される。

当面、関連諸機関が支援することは当然として、電子化された報告書の利用は非常に有益。

遺跡リポジトリの活用①—報告書の利用—



宮城県内の報告書を活用できるように、県内の関連機関に積極的な働きかけを行った。その結果、宮城県、仙台市等13自治体(合計約1000冊分)から協力を得ることができた。今後、さらに働きかけを進める予定。

東北大学(埋蔵文化財調査室、考古学研究室)所蔵報告書を登録しても良いのだが、まずは個々の自治体で意識的に参加をしてもらい、継続的な活動へと繋げていきたい。

遺跡リポジトリの活用②—刊行物の流通—

津波などにより刊行した報告書類が失われてしまった場合、許可を得て、近隣機関あるいは大学図書館等で所蔵している該当報告書を遺跡リポジトリとして公開する。

バックアップとしての意味合いもあるが、失われた刊行物を社会に流通させるための手段としても有益である。

東北大学附属図書館と共に、石巻市教育委員会刊行報告書類について遺跡リポジトリに登録する作業を開始した。

- ・東北大学(埋蔵文化財調査室・附属図書館等)所蔵の報告書類を遺跡リポジトリに登録する。
- ・所蔵していない報告書類については、様々な機関等から協力を得て入手する。